

かまくら 図書館 だより

LIBRARY
SINCE 1911
No.112

●鎌倉市図書館のホームページ

パソコンから <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp>

携帯電話から <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/i>

第2次 鎌倉市図書館サービス 計画ができました！



目次

図書館のサービス計画……P1

平成26年度重点項目……P2

神奈川県立公文書館見学記

……P3、P4

3つの基本目標があります。

- ① 図書館は生涯学習の拠点になります。
- ② 鎌倉ならではの図書館をめざします。
- ③ 市民とともに図書館を創ります。



① 生涯にわたる豊かな読書体験と図書館利用の手助けをします。
特に、人間形成期において重要な乳幼児・児童青少年の読書環境の整備に努めます。

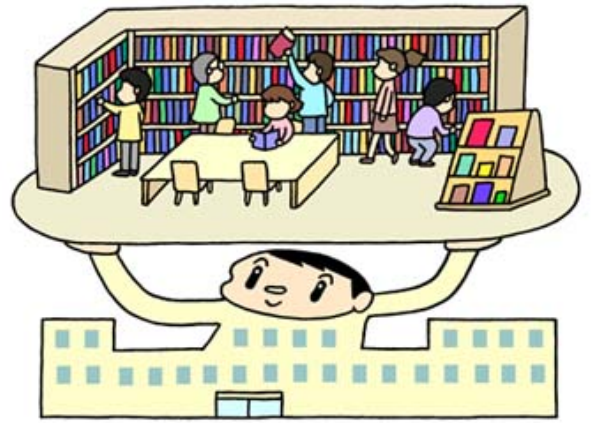
② 所蔵する鎌倉の近代史の資料を整備公開し、
地域に残る貴重な資料の収集保存と研究をすすめ、
鎌倉の文化を保存します。



③ 従来の利用者や図書館関連団体だけでなく、
広く市民が交流できる場所として、様々な市民活
動グループを含め、地域コミュニティの核となり
ます。

アンケートやパブリックコメントへ
のご協力ありがとうございました！

鎌倉の図書館
平成26年度
サービスの重点ポイント



■新たに取り組みます！

★「図書館サービス計画」

第2次計画を開始します

★生活に役に立つ図書館

地域の専門家や団体と協力して、講座や展示等開催
人と情報の交流点としての機能を果たします

★まちづくりに役立つ図書館

市民の交流・仲間作りの機会を提供します

★コンピュータシステム更新

新しい時代に対応した図書館システムづくり
平成27年3月更新を予定しています

★デジタルアーカイブ公開

鎌倉近代史資料を中心に公開していきます

★国立国会図書館配信のデジタル化

資料の閲覧・複写を開始します

★中央図書館耐震診断

耐震診断をし、安全確保と資料保存に有効な対策を検討します

■つづけて取り組みます！



利用者懇談会等の機会を活用し、
図書館イメージの向上とPRをします



市民がつくる図書館まつり

「ファンタスティック☆ライブラリー」を開催



マイクロバス
で行く

「神奈川県立公文書館」見学会

平成 26 年 3 月 1 3 日 参加者 22 名

～ アンケートから ～

■ 今回の催しへの参加の理由を教えてください

- 😊 どのような資料があるのか、それは公開されているのか、どうやって調べればいいのか等に興味があったから
- 😊 見学先に興味があったため（バックヤード）他
- 😊 鎌倉市にもぜひ公文書館を作る必要があるから
- 😊 見学先に興味があった
- 😊 公文書館がどのようなことを行っているのか気になったから
- 😊 公文書館がどのようなところか興味があったため
- 😊 見学先に大変興味があった。また、マイクロバスで送迎があるという事で参加しやすかった
- 😊 神奈川の公文書館の何たるかを全く知らなかったので良い機会と思い参加した

■ 県立公文書館を見学していかがでしたか。

- 😊 古い文献を探すということは考えていなかったから、興味深かった。市町村の公文書館と連携はとれないものなのではないでしょうか
- 😊 資料（史料）の活用方法など、大変参考になった
資料の修復（紙資料）方法（リーフキャスティング）は、大変興味深かった
- 😊 説明・見学のバランスよく組まれていました。資料の保存の仕方、ここまでていねいになされているとは思いませんでした。せまい所にいっぱい保存されている鎌倉の近代史資料室の資料も、このような環境の中におきたいと思いました
- 😊 公文書館の業務内容が理解でき、有意義な見学会でした
- 😊 説明を詳しくしてくださってよくわかりました。また、古文書の修復の実演もあったので修復のやり方などがわかりやすかったです
- 😊 公文書がいかに大切に扱われているかを知った。日頃、見せてもらえない保存倉庫、修復方法を見ることができてよかった
- 😊 公文書館というものの概要がつかめた。実際に利用することを始めたい
- 😊 他県に比べて蔵書数は少ないとのことでしたが、今後インターネット検索で利用する機会があると思います



マイクロバスで行く「神奈川県立公文書館」見学記

かまくら女性史の会 横松 佐智子



3月13日（木）雨天、鎌倉中央図書館主催参加人数20名、満席のマイクロバスが午後1時に市役所を出発、2時過ぎに「神奈川県立公文書館」に到着した。近くに二俣川運転免許試験場やがんセンターがある。現地集合の2名と合流し、まず公文書館職員のレクチャーを受けた。



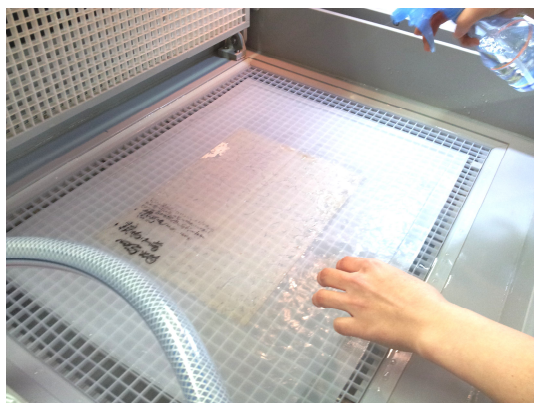
当館は1993（平成5）年開館、設立の動機は1967（昭和42）年に始まった『神奈川県史』編さん事業だったそうだ。県の歴史資料として重要な行政資料や古文書を収集し、県民共有の記録遺産として保存、公開（すべての公開を原則とする）を目的とし、現在70万点を収蔵しているという。そのため保管庫の管理、公文書館の運営に関する諸問題（行政文書の選別・収集・保存・修復・利用・電子化等）の調査研究と県民への理

解普及のための展示や講座開催の役割を担っている。特に文書館、図書館、博物館の役割の違いについての説明は納得できた。

レクチャーの後、靴カバーを付けて館内を見学した。ハロン1301の消火対策を備えた前室の奥の書庫は、室温22℃湿度50%に調整され、部屋の内装材に油分がなく調湿効果のあるツガ・ブナ・キリ材が使われ紫外線カットの蛍光灯が設置されていた。資料は中性紙封筒や中性紙箱に収められ、良好な保存環境を整えていた。



最後のリーフキャスティングマシンを使った修復の実演は興味深かった。従来、虫食いなどで損傷した部分を伝統的な裏打ちで修復していたが、「漉き嵌め式」という方法は、のりを使わず欠損部分に紙の繊維を補充し紙厚を変えずに修復できるものだ。



文書館を身近に感じる機会になったと同時に、鎌倉の現状を考えずにはいられない。